

争議部報告

自一九二七年七月  
至一九二八年七月

一  
 昨年度の経済恐慌は、資本主義生産上  
 歴史的條件であらねばならぬ。故に、川崎の  
 初めとして倒れたのは、大企業資本家の悲愴な  
 終末振舞い金融資本の系統的基礎の薄弱  
 を示し、亦中小工場の極端な経営難と倒壊  
 が大資本層進の結果である。日本資本主義  
 の安定は従来の自由競争的生産方法の制限  
 と、その生産方法の充実に完全なる市場  
 確保による全利潤の確保即ち産業の合理  
 化に安定の基礎を築き、ある。此の結果

資本の極度の集中化と共に地方労働階級の  
 生活は工場閉鎖、休業、賃銀切下げ、失業  
 の大量生産等襲来し、全国を挙げて其の生  
 活は低下され破壊された。

二  
 斯くの如き巨大資本の挑戦的攻勢は、没落  
 した小資本の絶望的攻勢の深刻化の動乱  
 期激動期に於ては、中小の雜種化学工業に  
 深き関係を有する秋が組合として其の状況  
 は甚だしくかまべきが覚悟である。昨年のモ  
 トラリアの直下の闘争を其の例とし、今日以  
 上として資本の安定のための攻勢を真正面  
 に付し、我々労働者同盟の奮闘組合の